

2024 年度日本高等教育開発協会課題研究申請書

2024 年 4 月 22 日

I. 研究名称

生成 A I 活用に関する F D 教材の開発

II. 研究代表者

中井俊樹（愛媛大学）

III. 研究組織

桑木康宏（学びと成長しくみデザイン研究所）、大津正知（茨城大学）、森木銀河（九州大学、非会員）

IV. 研究期間

2024 年 5 月から 2026 年 3 月

V. 研究の背景と目的

生成 A I の進展はさまざまな分野に大きな影響を与えている。大学教育の分野においては、シラバス作成、教材作成、テスト作成、ルーブリック作成、個別学習支援、授業の質の向上など、さまざまな場面で活用される可能性をもっている。生成 A I の活用は、個別の授業だけでなく、「何をいかに学ぶのか」という、大学教育全体のあり方について再考を促すものである。しかし、大学教育におけるその効果的な活用や対応については、まだ十分に整理されていない。

そこで本研究では、大学教員のための生成 A I 活用の論点を明らかにした上で、大学教員が生成 A I を効果的に活用できるための F D 教材を開発することを目的とする。具体的には、研究期間において以下の 2 つの目標を達成することを目指す。

1. 大学教育における生成 A I 活用の論点と課題を明らかにする
2. 大学教員の生成 A I 活用に関する実践方法をまとめた F D 教材を開発する

VI. 研究の計画

本研究の目的を達成するために3つの活動を行う。第一に、文献調査によって大学教育における生成AI活用の論点と課題を明らかにする。大学教育における生成AI活用の国際的な動向を調査する。また、大学外のさまざまな領域における生成AI活用の論点についても参考にする。第二に、先進的な取り組みをしている大学教員に対するインタビュー調査を行うことで、生成AI活用の工夫と課題を明らかにする。第三に、これまでの研究にもとづき、大学教員の生成AI活用に関する実践方法をまとめたFD教材を開発する。また、大学教育における生成AI活用のワークショップを開催することで、FD教材の質の向上を目指す。現時点で以下のような内容から構成されるFD教材を検討している。

大学教育における生成AI活用の意義、生成AI活用の課題、生成AI活用の指針、生成AI活用の倫理、プロンプトの作成方法、文章作成、要約、授業や教育プログラムの企画・設計、翻訳、シラバス作成、教材作成、課題作成、テスト作成、ループリック作成、英文添削、アンケート作成と分析、個別学習支援、学生への指導、組織ガイドライン、活用促進

(単位:万円)

2024年度		2025年度	
関連書籍	8	関連書籍	7
消耗品	1	消耗品	2
国内旅費	3	国内旅費	3
謝金*	3	謝金*	3
合計	15	合計	15

注) 日本高等教育開発協会会員以外の研究協力者への謝金

VIII. 成果の公表方法

本研究の進捗と成果は研究期間中の2回の日本高等教育開発協会年次大会で報告する。大学教育における生成AI活用の論点と課題については、『高等教育開発』への投稿論文としてまとめる。また、生成AI活用に関する実践方法をまとめたFD教材については一般書籍としての刊行、もしくは高等教育開発叢書としての刊行を目指す。